

ぶつ ぞう 仏 像

仏像は、紀元後1世紀頃インドでつくられ始めました。仏教を信仰する人々が、仏の姿を表現して、最初はお釈迦さまの像をつくりました。

仏像は、大きく如来・菩薩・明王・天部の4グループに分けることができます。如来はきびしい愛情(慈)、菩薩はやさしい愛情(悲)、明王は仏敵を許さぬ怒りの表情を表しますが、天部は多種多様であるため特徴を挙げきれません。

本来仏像は、真理すなわち悟りをひらいた姿である如来像をさしましたが、今では一般的に菩薩や明王、鬼神や高僧など、仏教に関連する像全般を総称します。

仏像は、やがて中国や朝鮮半島に伝わり、6世紀の飛鳥時代に日本に伝わったとされています。

日本での仏像

日本ではまず釈迦如来像がつくられ、長寿を祈る薬師如来や阿弥陀如来もつくられています。奈良時代には、人間の姿に近い仏像がつくられ、次第に理想的と思われる肉体にその姿は近づいていきました。

平安時代には、密教が伝来し、従来 of 仏の世界観に変化が起きました。新たに様々な力を持った仏たちが登場し、宇宙を統率する大日如来を始め、



銅造観世音菩薩立像(十念寺・北小岩五丁目)



木造阿弥陀如来立像(仲台院)

菩薩・明王・天部にも、その持っている力によってさまざまな姿がつけられるようになりました。

鎌倉時代になると、武家政治の時代を反映して、力強く生き生きとした写実的な仏像がつけられました。

室町時代から江戸時代には、庶民に親しみやすい大衆的な仏像がつけられるようになっていきます。

江戸川区の仏像

江戸川区は古来、大寺に恵まれてはいませんでした。しかし当区にも多くの寺院が開かれ、多くの仏像がつけられました。江戸川区にある仏像は、多くが江戸時代以降につくられたものですが、平安時代から室町時代にかけてつけられた仏像もあります。

無量寺(篠崎三丁目)の「木造阿弥陀如来立像」は平安時代後期頃に、妙音寺(一之江五丁目)の「木造阿弥陀如来坐像」は鎌倉時代初期につくられたとみられます。

また仲台院(西小松川)の「木造阿弥陀如来立像」、明福寺(江戸川三丁目)の「木

造親鸞聖人坐像」に誠心寺(江戸川三丁目)の「木造聖観世音菩薩像」なども、鎌倉時代につくられたと考えられる仏像です。

ところで、仏像だけが仏の世界を表しているわけではありません。仏の世界は、本来お堂やお寺全体によって表現されました。そのため、仏像をつくる仏師たちは、仏の世界を頭に描きながら、これからつくる仏の周りにはどんな仏がいて、どんな景色が広がっているのかを考えながらつくったとも言われています。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)